

審査論文要旨（日本文）

論文提出者氏名： 野本剛輝

審査論文

題名： The comparison of thyroarytenoid muscle myectomy and typeII thyroplasty for spasmodic dysphonia

(痙攣性発声障害に対する甲状披裂筋切除術と甲状軟骨形成術Ⅱ型の比較)

著者： Masaki Nomoto, Ryoji Tokashiki, Hiroyuki Hiramatsu, Uzimoto Konomi, Rei Motohashi, Eriko Sakurai, Fumimasa Toyomura, Yuri Ueda, Shun Inoue, Kiyooki Tsukahara, Mamoru Suzuki,

掲載誌： Journal of Voice(in press, 2015)

(審査論文要旨：日本語論文の場合 1,000 字以内・英語論文の場合 500 words)

【目的】

内転型痙攣性発声障害（以下 AdSD）の手術治療には甲状披裂筋摘除術（TAM）と甲状軟骨形成術Ⅱ型（TPⅡ）があり、両者とも多数の施設で行われている。両術式の比較検討を行ったため報告する。

【方法】

対象は 2008 年 3 月から 2012 年 11 月の期間に行った TAM30 例、TPⅡ 35 例。術前後の音声を術前と術 6 ヶ月後に「Voice Handicao Index 10 (VHI10)」と、「つまり」、「とぎれ」「ふるえ」、「気息性」の聴覚的印象を評価した。

【結果】

両術式とも「VHI」、「つまり」、「とぎれ」、「ふるえ」において有意に改善させ「気息性」においては有意に悪化した。特に「VHI」については TAM では 90%、TPⅡ では 96%で 6 点以上の改善が得られた。術前の各評価は両術式間に有意差はなかった。術後の各評価を両術式の間で比較すると TAM の方が「つまり」「とぎれ」「ふるえ」を有意に改善させたが「気息性」を有意に悪化させた。「VHI」では有意差は無かった。術前の評価を横軸に、術後の評価を縦軸とした各評価の散布図とその回帰直線から TAM は TPⅡ より重症例に効果的であることが分かった。

【考察】

TPⅡ と比較すると、TAM は「つまり」、「とぎれ」、「ふるえ」を改善させる傾向が見られた。一方で、術後に「気息性」が悪化する傾向が見られた。術後の「VHI」は両術式間で有意差がなく、良好な改善率であることから両術式とも有効な手術といえる。

(618 字)